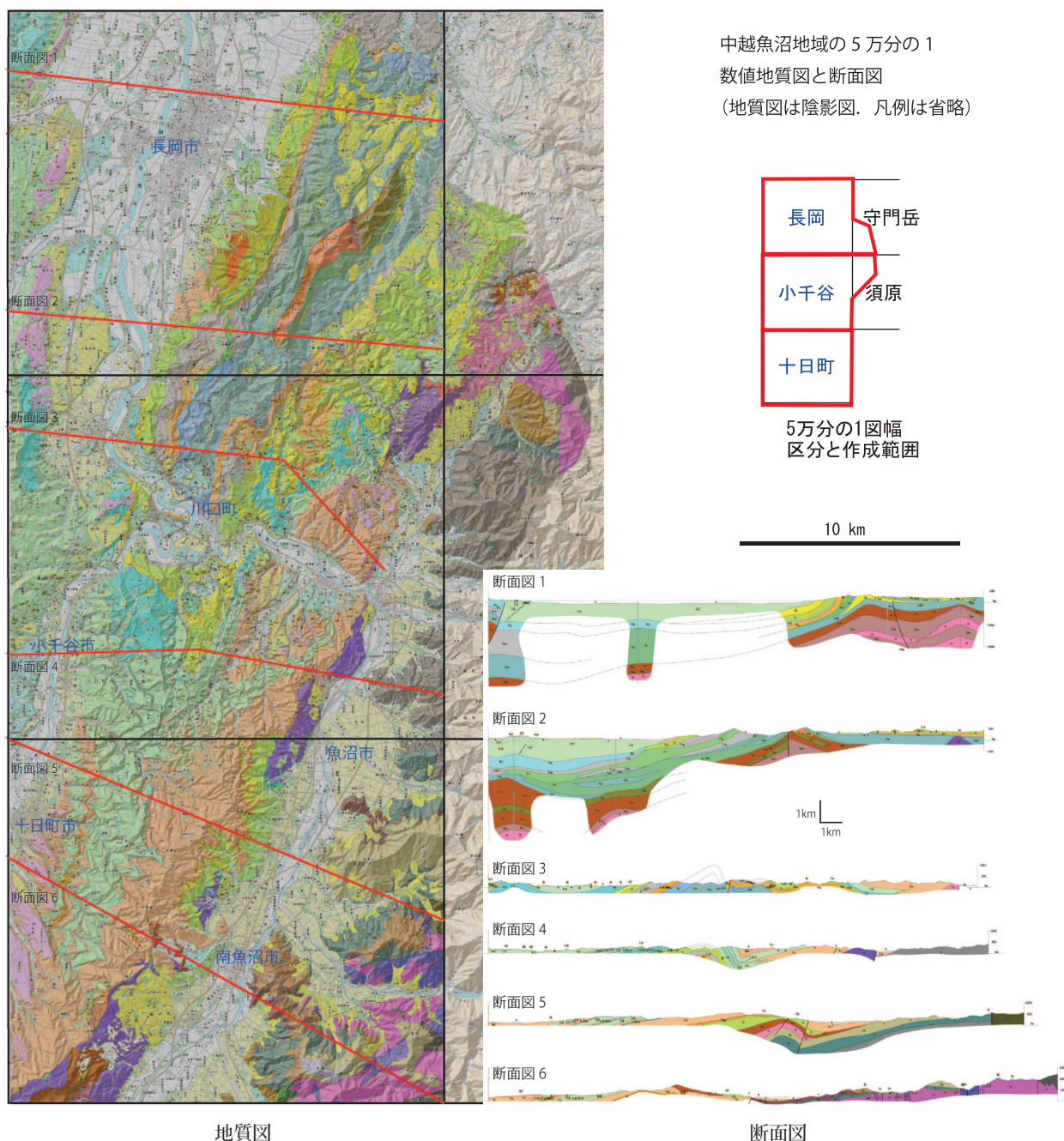


2004年新潟県中越地震の震源域周辺の5万分の1 シームレス地質図

<川 畑 大 作¹⁾>



既刊の5万分の1地質図幅「長岡」「小千谷」「十日町」の全域と「須原」の一部を統合し、「守門岳」の一部を編纂して加えたものである(竹内ほか, 2004)。統一凡例にて示したシームレス地質図で、ベクトルデータ及びラスターデータの提供は、<http://www.gsj.jp/GDB/openfile/files/no0412/0412index.html>等で行っている。産総研では、今後も災害時にはこのような形で地質図等を公開していく方針である。

この地域は北部フォッサマグナ地域で、主に中生代の付加体や火成岩類を基盤として、中新世～現在まで厚さ数km以上の堆積物、火山碎屑物、火山岩が分布している。これら地層・岩体は、著しく北西-南東方向に短縮しており、逆断層が多く発達する地域であるが、地層が厚く堆積しているため地表では逆断層による変位は非対称の褶曲構造として現れていることが多い(断面図参照)。